

和田 直樹

① クロッキーが作品に活かされた、と感じた瞬間はありますか？

油彩画の制作中、対象を見て迷いなく瞬発的に画面に筆を運んでいる時はクロッキーとリンクしている感覚があります。

② どんなクロッキーをやってみたいですか？（素材、サイズ、時間、モデルの設定など）

クロッキーはやりたいことがすぐに試せるのが魅力だと思っています。しかしこのところ木炭での単色のクロッキーを描くことが多かったので、その反動から色を使ったクロッキーが描きたいです。

③ クロッキーに欠かせない要素とは何だと思えますか？

観察と判断の速度。対象を捉えるための集中と、それを画面上に置き換える決断の速さ。

④ クロッキーの醍醐味は何だと思えますか？

A: 限られた時間の中で対象の本質にどこまで迫れるかという点。それに集中力の鍛錬。緊張感。また過程と結果がほぼ同時に現れる面白さだと思えます。

⑤ どういう時にクロッキーをやりたいくなりますか？

対象を前にして形や関係性など即座に確認したい時。一日の制作のはじめに、描く意識や感覚を整えたい時。。

⑥ 公開クロッキーを通して発見した、または再認識した事柄はありますか？

公開クロッキーは事前に出演者たちが集まって合同練習を行っています。そこでは作家それぞれの絵の考え方の一端を知れる興味深い機会でもありますし、またメンバーが互いに描いたクロッキーに対して意見を交わすことが、独りで作品創りをする日常とは異なって、とても新鮮で刺激的です。

⑦ 普段の制作の中においてこだわりを持っているポイントはありますか？

複数の作品を並行して進めることが苦手なので、作品一点ずつに意識を集中できるような環境にして描いています。

⑧ クロッキーをする上で、こだわっているものはありますか？

自分自身の気持ちの中では「こうしなければいけない」というルールをできるだけ排除し、毎回新しいものを探る気持ちで取り組みたいと思っています。

⑨ 逆に意外とこだわりがないものはありますか？

プロの美術モデルか否か。